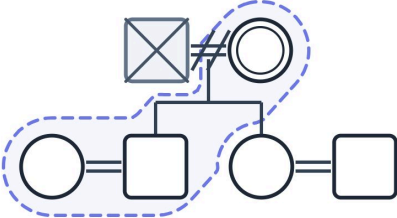


今回のアセスメントの理由		初回										
基本情報（受付、利用者等基本情報）												
受付日	令和8年8月17日			受付対応者		〇〇 〇〇			受付方法	電話		
居宅サービス計画作成の状況	初回											
フリガナ						性別	女		年齢			
利用者氏名	〇〇 〇〇					生年月日						
住所						家族構成図 						
電話番号												
世帯区分												
家族等の連絡先	KP	氏名	続柄	住所	電話番号							
	◎		長女									
			長男									

これまでの生活と現在の状況	
これまでの生活	夫 長男世帯とともに自宅で生活。 専業主婦。
現在の状況	夫は他界。 長男世帯と同居。 経済的に困窮することはないが長男に癌が見つかり療養中。 介護力に不安が残る。

主訴・意向	
利用者の主訴・意向	介護認定が下りたことで訪問介護の入浴介助や家事の協働、余暇充実や閉じこもり予防のために本人からデイサービスを利用してみたい。
家族の主訴・意向	閉じこもりとならないように、転倒しないように 生活してほしい。

認定情報						
介護保険情報	被保険者番号		要介護度	要介護 1	認定年月日	令和8年8月7日
	負担割合	1 割	認定の有効期間	令和8年9月1日 ～ 令和12年8月31日		

利用者の社会保障制度の利用情報						
医療保険	後期高齢者医療					
障害者手帳	身体障害者手帳	無	療育手帳	無	精神障害者保健福祉手帳	無
年金の受給状況	厚生年金					
生活保護	無	受給者番号			負担者番号	
その他の社会保障制度						

現在利用している支援や社会資源の状況					
現在利用している支援や社会資源の状況	サービス種別	事業所名		サービス種別	事業所名
	訪問介護				
	通所介護				

日常生活自立度（障害・認知症）											
日常生活自立度（障害）	認定時	主治医意見書	J1	現在（CM判断）	A1	日常生活自立度（認知症）	認定時	主治医意見書	I	現在（CM判断）	I
		認定調査票	J1					認定調査票	I		

健康狀態

既往歴・主傷病 受診状況	病名		病院名		診療科目	医師名※主治医は ◎	受診頻度	受診方法	同行者の有無
	大腸がん				内科	◎	1回/月		
	認知症				内科		1回/月		
	腎機能低下症				内科		1回/月		
身長	146 cm	体重	38 kg	BMI	17.8				
血圧		痛み	ない				褥瘡	ない	
服薬内容	薬局名		薬剤師		処方薬				
特記、解決すべき課題など									

ADL

寝返り	つかまらないでできる	起き上がり	つかまらないでできる	座位保持	できる	立ち上がり	つかまらないでできる
立位保持	支えなしでできる	歩行	つかまらないでできる	移乗	自立	屋内移動	自立
使用器具（屋内）	独歩	屋外移動	自立	使用器具（屋外）	杖	階段移動	見守り等
特記、解決すべき課題など	階段昇降は転倒リスク高い。						

排泄の状況

排泄の場所	トイレ			用具の使用	ない
排尿動作	自立	尿意	ある	尿失禁	ない
排便動作	自立	便意	ある	便失禁	ない
特記、解決すべき課題など					

清潔の保持に関する状況

入浴動作	一部介助	入浴の頻度	ほぼ毎日	衣類の着脱	自立	衣類の状況	普通
爪切りの動作	自立	爪の状態	普通	洗顔の動作	自立	整髪動作	自立
室内の状況	普通			寝具の状況	普通		
特記、解決すべき課題など	下肢筋力の低下から入浴時においては見守りまたは一部介助を要する。						

口腔内の状況

口腔ケア	自立	残存歯	一部ある	歯の欠損	ない	義歯の有無	部分義歯
口腔衛生	支障なし	口臭の有無	ない				
特記、解決すべき課題など							

食事摂取の状況

食事摂取の動作	自立	食形態	普通食	水分とろみ	ない	食事回数	1日3回
嚥下	できる	栄養状態	良好	食事制限	ない	水分制限	ない
特記、解決すべき課題など							

IADL

生活リズム

コミュニケーションにおける理解と表出の状況

認知機能や判断能力

社会との関わり

家族等の状況

居住環境

その他留意すべき事項・状況 ※該当項目に○

虐待		経済的困窮		身寄りなし		外国人	
医療依存が高い		看取り					
特記、解決すべき課題など							

慣れた環境下であれば、身の回りのことは概ねできる。 余暇充実に対する思いがあるので本人の希望に合ったデイサービスがあると良い。 自宅内においては階段昇降が最も危険。 その他、自立支援のための清掃協働や安全確保と身体清潔維持のための入浴介助の体制があることが望ましい。